

13 まち・ひと・しごと創生総合戦略特別委員会における柳下礼子県議の質疑

2016年3月8日

第157号議案に対する修正案に関する質疑

いのか。

Q．柳下委員

- 1 基本目標1の主な施策に追加した「本県の交通の優位性を生かした流通拠点整備の推進」、「首都圏中央連絡自動車道沿線地域の産業基盤整備の充実強化」及び利根地域の重点課題・施策に記載している「圏央道沿線地域に加えて圏央道以北地域、東北縦貫自動車道沿線地域への産業地誘導」について伺う。関越自動車道三芳インターチェンジ付近の三富地域や圏央道周辺は、県内でも貴重な農業遺産や農業振興地域である。流通拠点整備や産業基盤制度なども必要だが、農業遺産の保護や、農業や環境保護などの地元住民の意見の尊重には、当然配慮していると考えが、提案者の見解を伺う。
- 2 私は、総合戦略の原案について、若者が結婚や出産をためらう大きな要因は非正規雇用の広がりであるとして、非正規雇用を減らす指標を盛り込むべきだとする意見を提出した。修正案に、女性の正規雇用への転換や大学卒業者に占める不安定雇用者の割合の減少を新たに盛り込んでいるのは、このような意見に基づいてのことなのか。
- 3 私は、地域を疲弊させ過疎を加速する要因として農業の衰退を挙げ、法人・個人にかかわらず全ての農業者を視野に入れて支援する観点から、農業就業人口を指標とすべきだとの意見を提出したが、KPIに「農家一戸当たりの生産農業所得」を加えたのは、このような意見に基づいてのことなのか。
- 4 主な施策に「虐待防止体制の強化」を新たに加えたのは、狭山市での虐待死事件を念頭に置き、二度とあのような事件を引き起こさないという強い決意からであると理解してい

A．武内委員

- 1 県では、「田園都市産業ゾーン基本方針」を定めており、圏央道のインターチェンジ周辺の産業基盤の整備と豊かな田園環境の調和を図ることとしている。方針には、三富地域などの豊かな環境との調和を図ることについても触れられており、住民の意見も当然尊重していくべきものであると考えている。

A．木下委員

- 2 非正規雇用を減らすことについては、強い問題意識を持って修正案を策定した。一番の問題は本意非正規雇用者であるが、その指標が見つからなかったため、「県内大学新規卒業者に占める不安定雇用者の割合の減少」をKPIとした。この指標が最善とは思っていないが、PDCAサイクルを回し、少しでも改善していくことにつながればと考えている。
- 3 農業の衰退が地域全体を疲弊させるということについては同じ認識を共有していると思っている。農業の課題は所得を向上させることであり、一步踏み込んで指標とした。農業の底上げをしていくことについては同じ思いを持っている。

A．新井（一）委員

- 4 昨今は、狭山の事件に限らず、虐待死が社会問題となっており、我々も心を痛めている。子育ての不安や負担感から虐待に走ってしまう事例もあると聞いているため、虐待防止体制の強化について、「埼玉版ネウボラ」として

修正案に加えた。母親の負担を減らすことによって、同様の事件が二度と起こらないようにとの強い思いから修正案を作った。

Q．柳下委員

相談体制の充実をはじめとする虐待防止体制の強化を図ることは、子育ての不安や負担感を解消することにつながるため、主な施策として位置付けることは大切なことである。特に、福祉関係者のみならず、医療、保健、警察などの関係者や地域住民の幅広い協力体制の充実が重要であると思う。そのためには、発生の予防、早期発見、早期対応などについて研修をしっかりと行っていくことが必要であるが、修正案では研修の実施を視野に入れているのか。

A．新井（一）委員

どのような体制で虐待防止を推進するのかは執行部が決めることであるが、発生予防、早期発見、早期対応、保護・支援については、県が一丸となって取り組んでいただきたいと思います。